

育成会 会報

平成28年度版

発行所

一般社団法人

広島県手をつなぐ育成会

広島市西区打越町17-27

育成会総合福祉センター内

TEL (082)537-1773

FAX (082)537-1778

編集責任 副島宏克

ごあいさし

一般社団法人 広島県手をつなぐ育成会

会長 副島 宏克

第42回広島県知的障害者福祉大会・第15回はつらつ大会(本人大会)を、平成28年10月9日(日)に備北圏域大会として庄原市で開催いたします。皆様、どうぞお揃いでご参加ください。

さて、この夏はリオオリンピック・パラリンピックでの日本勢の活躍に日本中が熱狂しました。しかし、そんな平和の祭典が始まる直前に、私も育成会にとって最悪の事件が起こってしまいました。平成28年7月26日未明、神奈川県相模原市にある「津久井やまゆり園」で起こった史上かつてない事件です。この痛ましく、悲しい事件で尊い命を奪われた19人の方々のご冥福を祈るとともに、そのご家

族の方々にお悔やみを申しあげます。また、負傷された27人の方々とそのご家族の皆さま方へ心からお見舞いを申しあげますとともに、一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

この事件の第一報を受けたとき、あまりの衝撃の大きさに、筆舌に尽くしがたい無念と憤怒の感情を抱きました。翌27日にいち早く発出された全国手をつなぐ育成会連合会の久保厚子会長による声明文と本人宛のメッセージに我々育成会は心から安堵し、これまで通り心を強く持って活動を継続する勇気を得ることができました。ここに、その声明文とメッセージを掲載いたしますので一読ください。

神奈川県立津久井やまゆり園での事件について (声明文)

平成28年7月26日未明、障害者支援施設「神奈川県立津久井やまゆり園」(相模原市緑区、指定管理者・社会福祉法人かながわ共同会)において、施設入所支援を利用する知的障害のある方々が襲われ、19人が命を奪われ、20人が負傷するという未曾有の事件が発生しました。被害に遭われ亡くなられた方々に、衷心よりご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様にはお悔やみ申し上げます。また、怪我をされ治療に当たられている方々の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

抵抗できない障害のある人に次々と襲いかかり死傷させる残忍な行為に私たちは驚愕し、被害にあわれた方々やそのご家族の無念を思い、悲しみと悔しさにただただ心を震わせるばかりです。職員体制の薄い時間帯を突き、抵抗できない知的障害のある人を狙った計画的かつ凶悪残忍な犯行であり、到底許すことはできません。

事件は、当会会員・関係者のみならず、多くの障害のある方やご家族、福祉関係者を不安に陥れ、深く大きな傷を負わせました。このような事件が二度と起きないよう、事件の背景を徹底的に究明することが必要です。

今後、事件対応に関わる皆様には、まずは被害者及び被害者の遺族・家族、同施設に入所されている方々のケアを十分に行ってくださいようお願いいたします。その上で、事件の背景・原因・内容を徹底して調査し、早期に対応することと中長期に対応することを分けて迅速に行いつつ、深く議論をして今後の教訓にしてください。加えて、本事件を風化させないように今後の対応や議論の経過を情報として開示してください。

また、事件で傷ついた被害者やご遺族が少しでも穏やかに過ごせるよう、特に報道関係機関には特段の配慮をお願いします。

事件の容疑者は、障害のある人の命や尊厳を否定するような供述をしていると伝えられています。しかし、私たちの子どもは、どのような障害があっても一人ひとりの命を大切に、懸命に生きています。そして私たち家族は、その一つひとつの歩みを支え、見守っています。事件で無残にも奪われた一つひとつの命は、そうしたかけがえない存在でした。犯行に及んだ者は、自らの行為に正面から向きあい、犯した罪の重大さを認識しなければなりません。

また、国民の皆様には、今回の事件を機に、障害のある人一人ひとりの命の重さに思いを馳せてほしいのです。そして、障害の有る無しで特別視されることなく、お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会づくりに向けて共に歩んでいただきますよう心よりお願い申し上げます。

平成28年7月26日

全国手をつなぐ育成会連合会 会長 久保 厚子

津久井やまゆり園の事件について

(障害のあるみなさんへ)

7月26日に、神奈川県にある「津久井やまゆり園」という施設で、障害のある人たち19人が殺される事件が起きました。容疑者として逮捕されたのは、施設で働いていた男性でした。亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族にはお悔やみ申しあげます。

また、けがをされた方々が一日でも早く回復されることを願っています。容疑者は、自分で助けを呼べない人たちを次々におそい、傷つけ、命をうばいました。とても残酷で、決して許せません。亡くなった人たちのことを思うと、とても悲しく、悔しい思いです。

容疑者は「障害者はいなくなればいい」と話していたそうです。みなさんの中には、そのことで不安を感じる人もたくさんいると思います。そんなときは、身近かな人に不安な気持ちを話しましょう。みなさんの家族や友達、仕事の仲間、支援者は、きっと話を聞いてくれます。そして、いつもと同じように毎日を過ごしましょう。不安だからといって、生活のしかたを変える必要はありません。

障害のある人ひともない人も、私たちは一人ひとりが大切な存在です。障害があるからといって誰かに傷つけられたりすることは、あってはなりません。もし誰かが「障害者はいなくなればいい」なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。ですから、安心して、堂々と生きてください。

平成28年7月27日

全国手をつなぐ育成会連合会 会長 久保厚子

第42回広島県知的障害者福祉大会 （備北圏域大会・庄原会場）

「開催にあたって」

大会実行委員長 大田 徳三（庄原さくら学園庄原もみじ園保護者会会長）



第42回広島県知的障害者福祉大会（備北圏域大会）並びに第15回本人大会（はつらつ大会）

を庄原会場で開催するにあたり、広島県備北圏域（庄原市・三次市）の各行政や福祉団体の方々にご理解とご協力をいただき開催する運びとなり、さらには各種団体の皆様にもご理解をいただき心より感謝お礼申し上げます。

本年4月に「障害者差別解消法」が施行されました。障害を理由とする差別は、配慮不足や無理解に起因しており、それは教育、医療、職場、公共機関、役所の窓口など様々な場面において発生し、嫌な思いをしている実態を解消する法律として、しっかりと機能する事を願います。

法律は、施行されただけでは効果が上がられません。この法律の精神と意義を私たち自身と取り巻く多くの皆様方とともに真剣に向いあい考えていく中で、差別のない社会を作り上げる努力が必要と考えます。

過日、障害者に対する無理解から悲惨な事件が起こりました。激しい憤りを感じると共に私たちが「如何を為すべきか」を問われた気も致しました。

この大会では、「お互いさまの地域を目指して」を主題としました。

現在、備北地域には育成会組織が未熟で、全体を纏めたネットワークが出来上がっておりません。この大会を契機に在宅、作業所、施設、教育機関のそれぞれに身を置いている仲間を結びネットワーク作りをしようとしています。

サブテーマを「見つめ合い、認め合い、支え合う地域を創ろう」とし、講師に全国手をつなぐ育成会の久保厚子会長にお願い致しました事も、育成会活動を根本から再認識し実践、展開していく足掛かりになればと思っております。

午後からのシンポジウムは、「助けあい、支えあう地域をつくらう」をテーマに、久保厚子会長を助言者として、副島会長・庄原市福祉担当者・三次市保護者・庄原市保護者が現状と課題を出し合い、今後の育成会活動の方向性を見いだそうと考えています。

そしてシンポジウムを参考に各地域に持ち帰られ実践していただきたいと思います。県内各地域から、たくさんの方が来られることを期待いたします。

リオ五輪とW杯の競泳200mで名前と同じ金メダルを獲得した、金藤理恵選手のご郷庄原市で皆様にお会いできる事を楽しみにしております。

備北初のはつらつ大会開催にあたり

第15回はつらつ大会（本人大会）現地実行委員長 コスモスの会 熊澤 有馬



今年の「第15回はつらつ大会」の実行委員長を務める熊澤有馬です。

大会スローガンは「心ある暖かな里山・芽吹く絆と温もり・庄原の輪」です。初めての

の庄原開催ということで大会スローガンを作るのにあたっていろいろ大変でした。初めての

の実行委員長だったので手探りのところもありました。

大会スローガンのイメージがなかなか決まらず苦労しました。でも現地の仲間たちに助けてもらい、

いいスローガンになりました。今年の大会の内容は午前中は行政の人との話し合い、県内の仲間と現地の

仲間たちによる僕らの「全カスピーチ」を企画しました。午後は県立広島大学アイリッシュミュージック

サークルの「アイルランドの風」とおなご乱舞連さんの踊りを企画しました。このアトラクシ

ョンは庄原を盛り上げるために考えました。そしてこの会場である庄原中学校はリオデ

ジャネイロオリンピックで金メダルを取られた金藤理絵さんの母校でもあります。

今年の大会はリオオリンピックに負けにくいくらい、盛り上げたいと思います。



庄原市障害者支援事業所連絡協議会について

一 庄原市障害者支援事業所連絡協議会とは

当連絡協議会は、庄原市内の障害福祉サービス事業所等の共通課題の解決に向け協力し合い、研修や連携及び親睦を深める事業を行い、もって障害者の福祉向上を図ることを目的とし、平成22年に市内の障害者支援事業所等10カ所が集まり設立されました。

設立当初は各事業所の事業所長を中心に研修会や講演会を計画することを主な活動としていましたが、地域の障害者支援や障害者の社会参加のさらなる促進を図っていくため、平成25年10月、協議会に活動の計画及び実施に特化した作業部会を設立。この作業部会には各事業所の現場職員等が参加すること、より多くの視点から課題解決に向けたアプローチが協議できるよう図りました。さらに、作業部会での活動を大きく3つに分類。各分類を分科会（①交流分科会・②販売分科会・③研修分科会）とし、より細かな計画作成と迅速かつ充実した活動や行事開催ができるよう努めました。

その後、新たに6カ所の事業所が加わり、現在は16事業

所間で協議を重ねながら、庄原市の障害福祉に係る様々な活動へ取り組んでいます。

二 連絡協議会の取り組み

(1) 作品展示会

障害者の地域啓発や地域参加を目的として、平成26年9月に第1回作品展示会『プリズム』を開催。この展示会には当連絡協議会へ加盟している事業所の利用者から作品を集め、庄原市田園文化センターの



一室をお借りし、展示させていただきました。絵画や書道をはじめ、立体造形や陶芸など幅広く、それぞれ特徴がある作品が多数寄せられました。

展示会へ来られた方々からは「素晴らしい作品ばかりで感

動しました」という意見が多く聞かれた上、展示会へ作品を出展された利用者



者からも「自分の作品をたくさんの方にに見てもらえて嬉しかった」、「次回は今回よりもすこ

い作品を作つて出展したい」など達成感や充実感のある意見を多く聞かせていただきました。この展示会『プリズム』は、平成27年12月に第2回を開催し、本年12月にも第3回を開催することが決定しています。

(2) スポーツ交流会

「展示会など芸術分野で思いや長所を発揮できる方もいれば、スポーツで発揮できる方もいるはず」という作業部会員の意見から、平成27年9月に第1回スポーツ交流会を開催しました。競技には、県内で大会も多



開かれ、親子みなが楽しめるフライングディスクとパラリンピック種目にも採用され、子供から高齢者、障害者といった幅広い方が一緒に楽しめるポッチャ

(BOCCIA)を取り入れました。

各事業所より利用者総勢92名の参加があり、特にポッチャでは、珍しさやそのゲーム性から付き添いの職員も必死になり、利用者と職員ともに盛り上



がるといった姿が見られました。参加された利用者からは「スポーツを通じ、たくさんの方と交流できたので楽しかった」、「ポッチャが車いすでも参加することができ、自分のチームが勝つたので嬉しかった」との声が聞かれたこともあり、昨年に引き続き今年も開催できるように協議を進めています。

(3) 研修会

庄原市内の障害者支援に係る事業所等の職員が、知識や技術向上を図る機会をより多く持つことができるよう、協議会加盟事業所の職員やその他関係機関の職員を対象に、研修会を開催しています。研修会の内容については、作

業部会で地域ニーズ等を参考に協議することはもちろん、各事業所の職員へどのような研修を受けたいかアンケート調査を実施。その結果に沿った内容で研修会を開催することで、より積極的に参加でき、日々の支援における悩みや課題が解決していけるような研修会になるよう計画しています。

平成27年には、原田和明氏（南海福祉専門学校社会福祉士養成通信課程科長・高石市自立支援協議会会長）を講師にお迎えして『知っておくべき障がい福祉の現状とこれから』をテーマにお話しいただきました。また、本年9月には強度行動障害に対する関心の高まりから、水野敦之氏（広島県発達障害地域支援体制マネージメント事業地域支援マネジャー）を講師に強度行動障害についてグループワークを混じえた研修を開催させていただきました。

（4）講演会

庄原市近辺の地域住民へ障害者理解の促進を図ることを目的とし、幅広く多くの方に参加してもらえようという講演会の開催を目指しています。

本年12月、第1回目の講演会として、ダウン症があり書道家として精力的に活動されている金澤翔子氏の母親である金澤泰子氏をお迎えすることが決定しており、この講演会を通じて多くの方が『障害』を身

近に感じていただけるよう、広報活動をはじめその他の準備を尽力的に進めています。

（5）合同販売

販売による障害者の地域参加の機会増加と働くことへの楽しさややりがい向上を図られていくことを目的として、協議会加盟事業所かつ商品製造及び販売を行う事業所が中心となり、合同販売会の開催について協議を重ねています。

◆ 連絡協議会加盟事業所 ◆

- ・ 青空
- ・ かわせみの家
- ・ 共同作業所ゆめのいえ
- ・ 西城さをりしあわせ工房
- ・ 庄原共同作業所
- ・ 庄原さくら学園
- ・ 庄原第2もみじ園
- ・ 庄原もみじ園
- ・ 相扶園
- ・ そよ風
- ・ 東寿園福祉作業所
- ・ ともいきの里
- ・ ハート作業所
- ・ 発達さぼーとほっぷ
- ・ ふれあい共同作業所くちわみとう温泉

事務局

かわせみの家

広島県庄原市高町一二四六
TEL (0824)724584
FAX (0824)724603

庄原さくら学園 青空

青空は、就労移行支援・就労継続支援B型・生活介護の多機能型事業所です。緑豊かな自然の中で、利用者の意向や目標に沿った利用計画により、利用者一人一人の目標へ向かって共にチャレンジをし、活動や作業に参加する「やる気」・できた時の達成感を味わう「やりがい」・やりがいからつながる利用者の「いきがい」を作っていくことができる支援を目指しています。

椎茸・お菓子・仕出し弁当・惣菜等いろいろな商品も販売しています。どれも自信をもった商品です。ぜひ一度お試しく下さい

問い合わせ先

青空事業所
庄原市水越町808-2
(0824)7512822



青空の外観



仕出し弁当製造



しいたけ栽培



お菓子製造



『手をつなぐ』の購読のお問合せは、
 県育成会事務局まで
 電話 082-537-1773
 FAX 082-537-1778

購読年会費
 3,800円(税込、送料込)
 (毎月届きます)

「コスモスの会」

今回の第15回はつらつ大会備北大会庄原会場を通じて、庄原で初めての大会でもあり、備北圏域に現地実行委員会を発足しました。今年2月から月に一回程度、現地実行委員会で大会を盛り上げるため皆さんで意見を出し合い、話し合いを進めてきました。また、この大会をきっかけに備北での本人活動を活発にしていくために、本人部会として「コスモスの会」を結成しています。活動としては、現在はつらつ大会の準備が中心ですが、大会が終了した後もこのコスモスの会で活動を続けて自分たちで決まりや行事などの計画をして外出やレクリエーション・研修など仲間同士の交流を深めていくことができると考えています。



現地実行委員会のようす

備北圏域に初めてできる本人部会です。たくさんの方に知ってもらい、今後も多くの仲間と活動を続けて、備北地域の皆さんが地域の中で活き活きと生活して行ければと思っていますのでよろしくお祈りします。
 (青空 藤本)

はつらつ友の会 「平成28年度なんでも相談会 & 本人交流会」開催のお知らせ

開催日 平成29年2月19日(日)
 開催市 福山市(場所は未定です。)
 今年度は、講師に「あたらしい法律の本」を書かれた又村あおいさんを講師に迎え、みなさんの知りたいことや相談したいことにお答えいただく予定です。
 参加したい人は、12月の終わりに各育成会に開催要綱と参加申込書を配布しますので、もうしこんでください。

部【アンジュヴィオレ広島vsセレッソ大阪堺レディース】観戦招待(150名、30万円分)のご寄附をいただきました



真ん中：生保協会広島県協会様
 左二人：アンジュヴィオレ広島様

このたび、一般社団法人生命保険協会広島県協会様より、広島県障害者支援課を通じて、社会貢献活動の一環として女子サッカーリーグ2

一般社団法人
 生命保険協会広島県協会様より
 ご寄附をいただきました

県会報の作成に当たっては、社会福祉法人広島県共同募金会より助成をいただきました。

「2016ボウリンピック in ひがしひろしま」開催のお知らせ

開催日 平成28年12月3日(土)
 開催場所 賀茂ボール(東広島市)大会事務局 社会福祉法人六方学園
 10月初旬に各団体に開催要綱を配布するとともに、広島県育成会ホームページに掲載します。ふるってご参加ください。

きました。競技スポーツと障害者との交流や、障害者がスポーツに取り組むきっかけづくりとなるよう、一層の社会参加を促進することに大きく寄与していただきました。
 呉市総合スポーツセンター(呉市郷原)で行われた試合(9月11日)には、呉市内の小学生や、呉、東広島市の事業所等から計150名が観戦し、地元チームのアンジュヴィオレ広島の大活躍に大きな声援と拍手を送りました。

